

伝説を
知ろう

木造男神坐像(重要文化財)

古代信仰を受け継ぐ行事

毎年4月23日、春祭に「築山行事(つきやまぎょうじ)」が行われる。境内の三本杉前に祭壇を設置し、二上山山頂の日吉社など三神の御幣を立て、祭壇の回りには桜が飾られる。天上から臨時の祭壇に神を迎える古代信仰の形を残しており、築山が曳山に



二上山山頂の日吉社(奥の御前)

二上射水神社

—ふたがみいみずじんじゃ—

二上山をご神体とする神社

奈良時代の創建といわれ、二上山をご神体とする。神社をまとめた「延喜式神名帳」に記された、越中国34社のうち、名神大社(神々の中で特に古来より靈験が著しいとされる神)の一つと伝えられる。

慶長14年(1609)、高岡開町時より前田家の保護を受け、明治時代まで続いた。

明治になって高岡古城公園に遷座したが、現在は射水神社元宮として、古代信仰を今に伝える。

所蔵する「木造男神坐像」は、全国最大級の鉦彫り彫刻神像で、国の重要文化財に指定されている。ケヤキ材の一本造りで、平安時代後期の作。顔は、丸ノミの跡を残し、筋肉の躍動を伝え、衣はなめらかさを表現するため平ノミで仕上っている。

平成28年、文化庁主催の海外展「日本仏像展」に出展され、イタリア・ローマの美術館で展示された。

発展していったと考えられ、高岡御車山の原形を知る上でも貴重である。



築山行事(県指定無形民俗文化財)

悪王子伝説

—あくおうじてんせつ—

封じ込められた荒神

昔、二上山には悪神が住み、人々を支配していた。ふもとのまないた橋の上に、毎月1、8、13、23、28日の5回、15歳以上の娘を人身御供として差し出さねばならなかった。これを怠ったら、二上の神の分身である悪王子が、五穀を大凶作にしよう。

天皇がこれを聞き、僧の行基を遣わした。行基は、二上山の山中にこもり、一心に法華経を唱えた。ついに、妖怪は大蛇の姿をあらわす。行基は、これを悪王子の宮に封じ込め、神として祀った。そして、これまでの人身御供に代えて、初穂知識米をお供えすることとした。

紅葉姫伝説

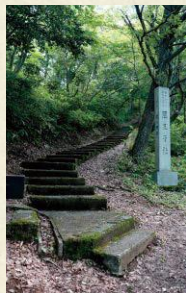
—もみじひめでんせつ—

悲しい結末に彩られて

越中国の太郎は、労役の任を果たすために都に上った。御所の庭掃除をしながら、歌を口ずさんでいると、その声の素晴らしさに紅葉姫が心惹かれる。姫は、太郎と親しくするようになるが、やがて太郎が帰る日が近づく。

「黒烏(くろがらす)の羽をそろえて発つ時は九重の塔も下に見るなり」。黒烏とは、太郎のあだ名。この歌を帝が知り、紅葉姫の気持ちを察し、結婚を認めた。

二人は、手を取り合い、越中国へ向かう。太郎の住む村に近づいたころ、もう食べ物がなく、太郎は栗などを探しに行く。残された紅葉姫は、なかなか戻らない太郎



悪王子社入口



悪王子社(前の御前)

悪王子社は、前の御前と呼ばれる地にあり、今でもその回りを7回半走り抜けると、大蛇が姿を見せるという。



を探して歩き出す。ようやく戻った太郎が見つけたのは、谷川に落ちて冷たくなった姫だった。太郎は、泣き叫ぶ。そして、二度とこのようなことがないように橋を架け、「紅葉橋」と名付けた。

